蓬莱

長唄　全詞章

杵屋六三郎　述

〔二上り〕うららかな、日の色そみて木の間にも、葉毎のはなの綾錦、重ねし縫の伊達模様
着つつなれにし山姫は、人の眺の迷ひ草、結びかねたる空解は、いつそ浮気なそよ風や
うらみてけむる塩竈は、胸に焚く火の消えかねる、エエ何とせう
仇しあだ浪、寄せてはかへす岩枕、浮名はぱつとたつ鳥の、塒を慕う恋の山
〔本調子〕萩のしら露起き伏し辛き、色と香の茂りてふかき床のうち、今朝の別れに袖ぬらす、
しよんがへ
招く芒は徒者よ、女郎花、あじな気になる花の色、さめぬ桔梗の可愛らし、しよんがへ、
うつつなや
詠めつきせぬ殿作り、実に蓬莱を見あぐれば、高き調の松が枝に、琴弾くやうな鶴のあしどり